

2020年3月19日



根津美術館所蔵の鈴木其一筆「夏秋溪流図屏風」が国の重要文化財指定へ



このたび、根津美術館が所蔵する鈴木其一筆「夏秋溪流図屏風」(6曲1双 紙本金地着色 日本・江戸時代 19世紀)が、国の重要文化財に指定される運びとなりました。

これは、2020年3月19日(金)付けで文化審議会から文部科学大臣に答申されたことを受けたお知らせです。

江戸琳派の奇才・其一の作品が重要文化財に指定されるのは、今回が初めてとなります。

(作品説明)

溪流が流れる檜の林。右隻は山百合の咲く夏の景、左隻は桜の葉が赤く染まる秋の景である。発色のよい群青と金泥で描かれた溪流のねっとりとした表現、百合や桜葉の克明な描写に対して単純化された熊笹、増殖するような点苔、右隻の右から3本目の檜に真横向きにとまる蟬など、一見写実的な描写に非現実的な感覚が色濃くにじみ出る。

筆者の鈴木其一(1796~1858)は、江戸琳派の祖・酒井抱一(1761~1829)の高弟であるが、琳派の枠にとどまらない個性的な画家として近年再評価が進む。40歳代半ばの作と考えられる本作品は、近代絵画を先駆けるとも評される其一の芸術性が集約された、文字通りの代表作である。

館長根津公一のコメント:

鈴木其一のこの作品は、尾形光琳の国宝「燕子花図屏風」とともに、当館所蔵の琳派作品の双璧をなしてきました。このたびの重要文化財指定を、大変光栄に存じます。引き続き、貴重な文化財を未来の世代に引き継ぐ使命を果たしてまいります。

この作品は本年、当館で開催される下記の特別展で展示の予定です。

2020年11月14日~12月20日

財団創立80周年記念特別展 「根津美術館の国宝・重要文化財」

※会期中に展示替えあり。展示期間等の詳細は、後日当館ウェブサイトでお知らせします。

<根津美術館について>

根津美術館は、実業家 初代根津嘉一郎のコレクションを基礎として、私邸のあった南青山の地に1941年に開館しました。収蔵品約7400件には、「燕子花図屏風」(尾形光琳筆 18世紀)など国宝7件、重要文化財88件(今回、新たに指定される鈴木其一筆「夏秋溪流図屏風」を含む)、重要美術品94件が含まれ、絵画、書蹟、彫刻、陶磁、漆工、染織、考古など多岐にわたる日本と東アジアの古美術品によって構成されています。2万㎡を超える広大な敷地には茶室が点在し、緑豊かな庭園が四季を彩ります。

公式ホームページ: www.nezu-muse.or.jp

上記情報は、発表日現在のものです。内容は予告なしに変更されることがありますので、あらかじめご了承ください。

お問い合わせ先:

根津美術館 広報 (所・村岡) press@nezu-muse.or.jp Tel. 03-3400-2536